

地域自治フォーラム

「子育て世代が参加しやすい地域活動」をテーマに、9月9日(日)すこやかプラザで開催され、子育て世代を中心に77名の参加がありました。子育て世代の参加が少ない要因を探り、現在の地域活動を振り返りながら、若い世代が気軽に参加できる地域活動について考えることを目的に実施しました。



Reuse Project
子ども服リユースも同時開催!

環境部家庭ごみ事業課が所管する「子ども服リユース事業」を協働開催しました。

市民活動ジャンプフェスタ

市民公益活動に取り組む様々な団体が活動を紹介するジャンプフェスタ。今年は台風の影響のため、1週間延期の9月15日(土)に開催となりましたが、767人の方にお越し頂きました。展示・ステージ発表・体験コーナーの他、とよなか夢基金のPRのためゲストにかみじょうたけしさんをお招きし、会場で「J:COMアワーかみじょうたけし」の公開収録も行いました。



training 市民公益活動団体の紹介 vol.03 activity voices

災害時帰宅困難者体験訓練 実行委員会

「歩いて家に帰れますか？」をスローガンに、災害時に徒歩で帰宅せざるをえなくなった状況を想定・体験し、心身ともに非常事態に備えるための訓練を実施しています。

この訓練は、平成23年の東日本大震災で多くの帰宅困難者が出たことをきっかけに平成24年からスタート。今年の訓練は、9月7日(金)に実施。台風21号の被害により停電等が続く中でしたが、通勤通学の方、子ども、高齢者など幅広い世代から参加されました。訓練は個人行動(参加434人)



団体行動 新大阪ルートの説明中

と団体行動(同119人)があり、各駅の受付ポイントからゴールまで自分の都合に合わせて参加できます。日頃は電車や車で移動している道も、視野を広げて歩いてみると、安全なルートやトイレ・給水ポイントの確認のほか、様々な気づきがあります。いざという時に

どう行動するか、心構えと備えを考える良い機会となります。参加者には協賛企業からの参加賞や、学校給食センターの炊き出し訓練のおにぎりの提供など嬉しい特典も。過去の訓練の様子や今後の開催については、ホームページ(上記参照)をご覧ください。



5,6人で団体訓練
豊中市学校給食センター
炊き出し訓練の様子

ちいきのわ

発行：豊中市 編集：市民協働部コミュニティ政策課

6月の「大阪府北部地震」、9月の台風21号など、多くの自然災害が立て続けに発生し、災害に対する備えの重要性を再認識した方も多いのではないのでしょうか。
自分自身や家族、身の回りの人たちの命を守るため、地域では様々な防災活動が取り組まれています。
今回の「ちいきのわ」では、地域自治組織や自主防災会における特色のある活動を紹介します。



備えは防災の第一歩。

大阪府北部地震を経験して、今できること



B



D



C

A B 小曾根小学校校区地域自治協議会：避難所開設訓練
C 大阪府北部地震直後の豊中市役所の様子
D ゆめあるまち高川会：防災訓練

地域自治組織で行っている防災・減災活動

豊中市内には7つの地域自治組織があり、すべての校区で防災をテーマにした取り組みを進めています。各校区では、訓練などを通じて、地域ごとの特性や課題に応じた、防災・減災の取り組みの強化を図っています。

トリアージ訓練

ゆめあるまち高川会では、『まさかに備える心がまえと人づくり』をテーマに、実践的な防災訓練を毎年実施。担当者は常に新たな課題を探するため、防災研修や他地区の防災訓練に積極的に参加しています。今回、訓練の一部に『トリアージ訓練』を取り入れました。



「トリアージ」とは、負傷者の重症度や緊急度に応じて、治療の優先度を定めることです。日頃から地域と連携している小曽根病院の協力のもと、看護師2名が講師となり、トリアージタグを使って訓練をしました。大地震などで大量負傷者が発生した場合、搬送や治療を滞りなく行うことが求められます。いざという時に、トリアージのような識別救急があることを住民の皆さんに知ってもらいました。



『わが家(まち)防災マップ』を作りました



野田校区地域自治協議会では、大阪府池田土木事務所の協力をえて、過去の災害をイメージしながら地図を使って行う「図上訓練」を実施し、まちの課題を共有しました。そして、訓練で出た意見を集約し、まち歩きをしながら危険箇所や避難経路を再確認しました。また、さらに災害時のお役立ち情報など地域独自の情報を盛り込んだ『わが家防災マップ』を作成し、全戸配布しました。マップ作りは防災への第一歩。今後もマップの更新と防災訓練を実施していきます。



実践的な『避難所開設訓練』で防災意識の向上

小曽根小学校校区地域自治協議会では、災害時に地域で助け合い、住民で対応を図ることを目標に「避難所開設訓練」を毎年実施。訓練内容は、協議会のメンバーで何度も意見交換を重ねながら決めています。段ボールで間仕切りをし、子どもから大人までみんなで協力し合ってプライベート空間を作りました。間仕切りされた体育館は、住民自身が避難所生活を想定でき、防災意識の向上につながりました。



大阪府北部地震を経験して、今できることを

千成校区で、防災訓練や防災講座の実施、校区内に15か所の防災倉庫を設置するなど、10年以上に渡り堅実な取り組みを継続されている千成校区自主防災会 会長の嶋弘志さんに大阪府北部地震直後の状況についてお話を伺いました。

千成校区自主防災会 会長
嶋 弘志 さん



Q&A

Q. 大阪府北部地震発生後、自主防災会の動きは？

A. 地震発生直後に、各自治会長や民生委員と連絡を取り合い、自治会員だけでなく、校区内の住民の安否確認にまわりました。単身高齢世帯の方にとっても喜んでいただき、新たに自治会へ加入された方もいました。

Q. 地震発生時、いち早く動けた秘訣は？

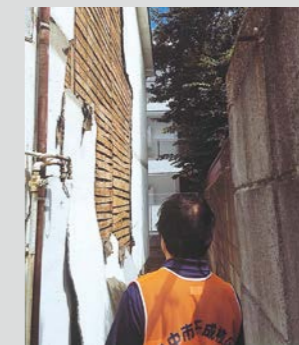
A. 災害時は「まずは自助・共助で」という意識を日頃からもつことがすぐに行動できる秘訣ではないでしょうか。

Q. 今後、どのような活動をしたいか？

A. 豊中市全体で合同訓練ができればと思います。防災の意識を高めることが大切なので、豊中市独自に『防災の日』を決め、皆が同じ場所に集まらなくても、それぞれが自宅や職場で同じ時刻に防災について考えるきっかけづくりをしたいと思います。

地域の工夫

毎年、役員が防災に関する情報を集め、皆で話し合って今やるべき訓練を校区で行っています。また、3年に一度実施している自治会単位の防災訓練では、小学生が書いた防災をテーマにした作文を発表してもらっています。子どものうちから防災に関心をもってほしいという思いで実施していますが、子どもたちから学ぶこともたくさんあります。千成では、近隣の事業所と連携するなど、地域ぐるみで防災に取り組んでいます。

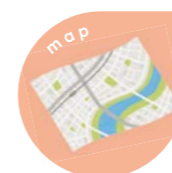


◀大阪府北部地震直後の安否確認の様子
▼被害を受けたトタンの建物



そのとき、役に立つ知識

大切な命を守るためには、正確な情報・知識と日頃の備えが大切です。適切な避難ができるように、災害への備えにお役立てください。



ハザードマップ 豊中市

市が発行している『わが家の防災マップ』では、最寄の避難所や事前の備えなど記載しており、『浸水ハザードマップ』では、浸水想定区域などを確認できます。(危機管理課 ☎6858-2683)



おおさか防災ネット 豊中市

気象情報やライフライン情報、災害発生時の被害・避難情報など、幅広い防災情報を提供しています。